

第4回	台東区都市計画マスタープラン策定委員会 会議録
日時	平成29年3月22日(水) 午後6時～午後8時10分
場所	台東区役所10階 研修室
出席者	<p>【委員長】野澤委員</p> <p>【委員】加藤委員、池邊委員、中島委員、茅野委員、松本委員、松田委員、梅澤委員、本間委員、伴委員</p> <p>【事務局】望月課長、村上係長、藤田主事</p>
議事	<p>○地域別整備方針について</p> <p>○都市計画マスタープラン骨子の方向性について</p>
配付資料	<p>台東区都市計画マスタープラン策定委員会委員名簿</p> <p>台東区都市計画マスタープラン策定委員会設置要綱</p> <p>第3回台東区都市計画マスタープラン策定委員会議事録(案)</p> <p>資料1：台東区都市計画マスタープラン策定に向けたスケジュール</p> <p>資料2：台東区都市計画マスタープランの検討経緯について</p> <p>資料3：台東区都市計画マスタープラン骨子(案)</p> <p>資料4-1：将来都市構造改定の方向性について</p> <p>資料4-2：土地利用方針の改定作業の進め方</p> <p>資料4-3：まちづくり重点地区の選定について</p> <p>参考資料1：都市計画マスタープラン策定に向けたスケジュール(第3回策定委員会提示資料)</p> <p>参考資料2：台東区都市計画マスタープラン(都市MP)骨子作成の方向性(第3回策定委員会提示資料)</p> <p>台東区長期総合計画</p> <p>台東区行政資料集</p> <p>台東区都市計画マスタープラン</p> <p>台東区都市計画図</p>
会議内容	
<p>1. 開会(省略)</p> <p>2. 出席状況及び定足数の報告</p> <p>【事務局】定数11名のうち、10名が出席している。従って、委員の2分の1以上出席されているため本委員会は成立していることを報告する。</p> <p>(資料の確認)</p> <p>【委員長】傍聴者はないか。</p> <p>【事務局】傍聴者はない。</p> <p>3. 第3回都市計画マスタープラン策定委員会議事録について</p> <p>【事務局】本日机上に配布している「第3回都市計画マスタープラン策定委員会議事録(案)」は、第3回都市計画マスタープラン策定委員会資料とあわせて、ホームページでの公表を予定している。持ち帰りいただき、ご確認の上、訂正箇所等がある場合は、4月7日金曜日までに事務局へご連絡いただきたい。なお、公表時には個人名や団体名を伏せた形で公表する。公表時期は4月中旬を予定している。</p>	

4. 議事

(1) 台東区都市計画マスタープラン策定に向けたスケジュールについて

【事務局】(資料1、参考資料1の説明)

【委員長】以前までの予定では上位計画である基本構想の改定が、本計画の公表時期のすぐ後となってしまうため、二度手間にならないように、基本構想の検討作業の進捗状況をみながらとしてはどうかという事務局のご提案であるが、よろしいか。次回の策定委員会は秋頃の予定となるスケジュールということで了解した。

(2) 台東区都市計画マスタープラン骨子(案)について

【事務局】(資料2、資料3の説明)

【委員長】1章と2章前半まではこれまでのおさらい、p.18・19の2章2-4からは前回までの議論に出ていない部分なので、この辺りからご質問・ご意見あればお願いしたい。

【委員】まちづくり施策のキーワードが、台東区固有でなく、国全体の都市政策の動向から導き出されるということに、どういう意味があるのか。それぞれのまちで、重点的な施策も課題も違うと思うのですっきりしない。唐突感のある台東区から離れるようなキーワードがないと、まちづくりの視点が整理できないのか。ストレートにまちづくりの視点に行かない理由や、フィルターとしての機能が本当にあるのか、意見として何が落とされたのかブラックボックスでよくわからない。

【事務局】これまでの議論の積み重ねにより、地域ごとの課題や特性が明らかになってきた。そのなかで、先ほどフィルターと説明したキーワードは、ふるいに落とすという意味ではなく、議論のなかで出てきていない都市施策として必要な視点を拾っていきこうという目的で、それを落とし込むために整理し直したものを3つめの列の視点として整理した。

【委員長】地域別の議論から出てきたキーワードと、全国的に言われているキーワードを足し合わせて、落ちがないかチェックした上で、まちづくりの視点を設定したということ。

【事務局】フィルターという説明は誤解を与えてしまった。仕訳け、整理のためのキーワードという意味とご理解いただきたい。

【委員】「視点3:都市の多様性」とあるが、どういう意味で使われているのか。内容をみると、地域コミュニティの形成があって、ユニバーサルデザインの推進がある。多様だから一つにするという意図なのか、多様なニーズに応えるという意図なのか。

【事務局】サブタイトルに「多種多様な人々が暮らし続けられるまちづくり」とあるように、都市のなかの多様性の重視を意図していたが、ご指摘の通り、どうにでも取れる紛らわしい表現であった。主語は人であり、多種多様な人が活動できるようなデザインのまちづくりということを意図している。

【委員】これまでの策定委員会のまとめであるローカルな課題と、大きな都市を取り巻く流れの2つから、まちづくりの視点が導かれるほうがわかりやすい。

【委員】p.19の表の書き方を工夫する。

【事務局】組み合わせによる考え方とわかるように、表現を検討する。

【委員】まちづくり施策のキーワードを具体的に見ていくと、「住宅の量から質への転換」等は古い。最近では、「住宅から住生活へ」が議論されているイメージ。どこかからただ引

っ張ってきただけではボロが出てしまうので、もう少し精査したほうがよい。

【事務局】図の書き方や内容を工夫して、表現を検討する。

【委員】表の上のタイトルでは「まちづくりの視点」なのに、それぞれの視点の中身では「都市の～」となる。何故「まち」ではだめなのか。

【事務局】無理矢理に合せているところがあり、先ほどの都市が主語になってしまう問題もあったので、「まち」に統一したほうがよいかもしれない。

【委員】「まち」のほうが範囲が広いイメージ。視点をローカルにすると親しみやすくなる。

【委員長】ここはひらがなの「まち」にしたほうがよいのではないか。

【事務局】「まち」に統一する。

【委員】前回までの委員会で、中部地域を浅草と同じカテゴリーにするのは無理があるのではないかと議論したが、やはり主な意見まとめの《浅草・中部地域》のボックスに書いてあることの中身は、浅草のことばかりになっていて、中部地域のことを一つもない。討議の内容から中部地域に関する意見をもう一項目加えたほうがよい。

【事務局】地域の取り方については前回説明させていただいたが、反映の仕方についても同時に考えていたが抜けてしまっていた。ご指摘の通り、中部地域に関する意見もいただいていたので、検討内容が浅草のことだけにならないように反映の仕方を見直す。

【委員】徒蔵(カチクラ)など積極的に活発になっているエリアなので、中部地域の内容が欠落しないように記載してほしい。

【委員長】基本構想と基本理念が、がらっと変わることはないのか。まちづくりの考え方の基本が変わってしまうのではないか。

【事務局】なんとも言い切れないが、歴史・伝統・文化というキーワードは残ると考えている。基本構想・理念より、まちづくりのハード側が先行しているので、うまく連携して反映や位置付けをしてもらうように働きかける。途中の議論の内容も庁内で共有するとともに、都市マスの地域の課題も反映すべきなので、報告していく。

【委員】2章の最後のまちづくりの視点と3章の基本理念と目標はどういう関係なのか。まちづくりの視点が、台東区らしくないどこにでもあるものなので、台東区として打ち出すべき価値があるのか心配している。

【事務局】現状では、作業上の都合により2章に視点を入れている。3章の基本理念・目標を受けて、その後ろに入れた方がよいのかもしれない。また、台東区らしさは、視点のなかでは必ずしも表現されていない。

【委員】基本理念が台東区らしくあれば、まちづくりの視点はユニバーサルなものでも良いのかもしれない。

【事務局】4章、5章では視点ごとに地域の特性と課題を整理したり、部門別の見直しのポイントを視点ごとに整理したりしている。整理するためのツールであるため、視点そのものには台東区らしさは入っていない。順番は今後見直したい。基本理念・目標の後に視点があったほうがわかりやすいので3章に入れたいと考える。

【委員】地域名称が気になる。他は固有名詞なのに、中部地域、北部地域、南部地域はアイデンティティがなく、住民は大きくりにされた疎外感があるのではないか。上野や谷中のような言葉で言い切れないのはわかるが、複数を重ねても難しいか。

【委員】地域の名前の付け方は難しい。例えば、浅草橋地域と言っても、鳥越の人は違うだろうという感覚が起きる。神社の氏子が絡んできてしまい、複雑である。北部を山谷とするのもまた難しい。

【委員】重点地区の資料では、「浅草橋・蔵前」となっている。

- 【事務局】都市構造の拠点や重点地区であれば固有名詞を付けることはできそうである。地域割りと名称は現行計画をそのまま使っていて、今まで名称について議論になっていない。最近、区で策定した計画類も都市マスに合せているという事情もあり、継承している。
- 【委員長】もう少しまちづくりが進めば、地域のなかから地域名称を変えようという動きが出てくるかもしれない。
- 【委員】p.22 将来都市構造では、生活圏が新しい概念か。
- 【事務局】生活圏の考え方は、現行計画のものである。生活圏の概念がわかりづらいということもあり、重点地区や拠点的な位置付けに変えていきたいと検討している段階である。将来都市構造改定の方角性については、議事（3）で説明する。現行の生活圏がなくなって、拠点の考え方を変えているので、詳細は後ほど説明させていただく。
- 【委員長】将来都市構造については、後でまた出てくるとのことで先に進めさせていただく。4章は地域別で前回まで約3回かけて議論したところである。まちづくりの視点を組み合わせて、表現を改めているが、内容的には新しくなっているわけではない。お気付きの点あればご指摘いただきたい。
- 【委員】4-1 上野地域の「視点4都市の快適性」のところに「緑被率が低い」とあり、事実としてはそうかもしれないが、それがイコール不快と直結しないような感覚がある。課題ではあるが、具体的に緑を増やそうと思っても場所がなく、現場レベルとしては「だから何」となってしまう。快適性という意味で挙げられることはこれだけなのか。
- 【事務局】前回までの資料で整理していたことと、委員会で議論されたことを事実として落とし込んでいる。ただ単に快適性への課題となると違和感があるかもしれないが、環境という視点で捉えると、緑に関することはここに割り振って書き込んだ。緑と水、美しい空間づくりという視点で、「視点4都市の快適性」として整理しているが、実際に地域によっては緑のことしか書いていないところも出てきてしまっている。
- 【委員】p.33 の北部地域や p.35 の南部地域では、快適性のところで敷地面積に言及している。他の地域もこういったことに該当することがないか調べて書くか、公園等のオープンスペースについても書けるのではないか。
- 【委員】上野地域の緑被率は意図があって入れたわけではないのか。東京都のグリーンベルト構想に関連して、上野公園や谷中墓地を含めた緑の一環としてこの記述があるのかと思っていた。
- 【委員】北部地域や南部地域の記述は、住環境としての快適性なので、上野地域は快適性の表現が難しい。
- 【委員】誰にとっての快適性なのか。
- 【事務局】ここでは課題だけでなく地域の特性という意味もある。今までの議論の内容をもう一度掘り起こして確認してみる。
- 【委員】p.19 まちづくりの視点のなかに快適性とは何かの説明が足りていないことが要因ではないか。快適性を構成する要素、例えば「緑が多い」等ブレイクダウンして書いておくと、後ろの地域別の記述などにもつながるのではないか。先ほどの多様性と言われても、中身が理解できない。多様性とはこういうことを指す、と説明があればわかりやすい。
- 【事務局】p.19 の書きぶりは、ご指摘いただいた視点でも見直したい。
- 【委員】例示が大事である。地域別の課題と特徴の「快適性」に、p.19 の説明からつながらない。
- 【委員長】今ここで、こう直すと示すのは難しいかもしれない。読んだ人がずっと理解できる説明に持ち帰って整理してほしい。

- 【委員】地域別と部門別をうまく結びつけるようなカテゴリー分けにしてほしい。
- 【事務局】改良案を作って今後提示する。
- 【委員】4-2 谷中地域の一番下の行に「個性ある商店街の環境整備による、まち歩き観光への対応」とあり、谷中銀座等のことを示しているのかと思うが、いま谷中では、商店街だけでなく、点々とある商店の良さによってまち歩きをより推進しようとしている。この記載も、「商店及び商店街」と入れておいてもらえるとよい。
- 【委員長】5章部門別整備方針は、これから検討を進める部分である。視点との関係をマトリクスで整理したり、土地利用方針を他の分野から特出して格上げの位置付けをしたりして見直しの方針として示されている。マトリクスも全部○が付いてしまわないように、工夫されているが、表現としてこれがいいかどうか含めてご意見いただきたい。
- 【委員】「視点2都市の活力」と「防災まちづくり」の交差に○が付くのが、ピンとこない。「視点5都市の安全性」であればわかるような気がする。
- 【事務局】おそらく、p.19の説明や例示が足りないといった議論に戻るのかと思う。
- 【委員】災害への備えをしているまちは付加価値が高くなるはずである。
- 【委員】魅力と活力は広い概念なので、個々の定義をしっかりとしないと分ける意味がない。
- 【委員】p.37のマトリクスは6つの視点がキーになっているが、この視点に時代の先取り感がない。20年前でも、この視点は既にあった。時代を先取るような視点を追加してもよいのではないか。例えば、台東区に住むと健康になる等。
- 【委員】パブリックヘルスは、今よく言われていることで、ふさわしい視点かと思う。p.18の都市政策の潮流の整理がまだ足りない。
- 【委員】従来型の「緑」も、最近では生物多様性をはじめ、様々な意味が付加されている。そういった観点を視点に入れると、既存の計画を現在のまちづくりに沿った形に組み替えられる。今のままではオーソドックスすぎる印象がある。
- 【事務局】キーワードが陳腐になっている可能性がある。
- 【委員】同意見で、オーソドックスかつ古く感じる。健康的なイメージを出せるとよい。
- 【委員】「健康」という視点は面白い。例えば、ジョギングしやすいまちづくり、車に乗らないで自転車で移動できるまちづくり等、健康寿命を延ばすまちづくりができるるとよい。
- 【委員】心の健康も大事である。
- 【委員】「アクティブデザイン」が世界の潮流である。ニューヨーク等でも前面に打ち出して、自転車に乗ると成人病対策になると進めている。東京でも台東区ならできるのではないか。
- 【委員】4章4-1上野地域のまとめに上野公園のことが書いてあるので、自転車通行空間の確保について、一項目どこかに追加できないか。
- 【委員】台東区では健康都市宣言をした。朝の隅田川沿いではウォーキングしている人数も多い。また、実際高齢者で働いている人も多く、80代で現役は普通である。年寄りも元気に働けるまちなので、子供や若い人を呼び込むことと混ぜて打ち出せるとよい。
- 【委員】区の面積も小さいので、区全域に歩いて行ける道路を整備する等、低炭素化にもつながる。
- 【委員】無理に目玉をつくる必要はないが、あるとよい。
- 【委員長】エネルギーの問題がほとんど書いていない。
- 【委員】エネルギーについては、ローカルの課題には落ちにくい。
- 【委員長】積極的に進めていることはないのか。例えば、上野地域ではこんな取組みをしている等

ないのか。

【委員】千代田区や港区のちよくる（レンタサイクル）が話題になっており、まちづくりにつながるテーマと思う。台東区では現状、レンタサイクルをやっていない。

【委員長】話が広がってきているが大事なところだと思う。どういう新しい視点を盛り込むか大事である。

【事務局】今回の資料の視点は、それぞれが重ならないような関係として整理しているため、排他的になっている。例えば、「住んで健康になるまち」とした場合に、再掲が出てくる。自転車は健康にも環境にも関係してくる。6つの視点どれかに入れようという目的で導き出すか、視点の割り振り方そのものを変える必要があるのか、持ち帰って検討したい。今回の骨子では、地域別の記載は視点に基づいての見直しのポイントではなく、これまでの委員会でも出された特徴や課題を、視点別に分けた形なので視点が資料の右側に来るイメージである。地域別を整理して、それを部門別に落とし込むという作業手順であり、地域別から出た意見を見直しのポイントとして、部門別の見直しをするという役割となっている。今回の議論を受けて、もう少し台東区らしい将来を見据えた魅力ある言いぶりに変えると同時に、視点がオーバーラップするところも出てくるので切り分けの方法も考えなければいけない。

【委員】視点があるから何か大きく変化しているというわけではなく、整理のために使っているということ理解した。地域別の議論で意見が出たから、切り分けたということ。

【委員長】その作業のプロセスをたどっている限り、現状を踏まえてなので、新しいアイデアは生まれない。

【委員】p.20 まちづくりの目標はまだ議論していないので、現行計画のままとなっている。これはいつ議論するのか。

【事務局】基本構想の検討作業をみながらと考えている。

【委員】まちづくりの基本理念と目標の議論を、この場で十分にやっていないから違和感があるのではないかと。まちづくりの視点というのは、目指すべき目標をブレイクダウンした項目が並んでいて、それぞれが部門別の整備方針でその目標を実現していくのだ、というマトリクスになっているとわかりやすい。基本構想をただ待つのではなく、並行作業していくのはチャンスとも言える。むしろ、ここでの議論を先行させて、基本構想の検討にフィードバックさせる方がやりやすいのではないかと。

【事務局】スケジュールの兼ね合いを考えてしまう。作業の流れとして、視点は目標につながるとよいと思って作っていたが、目標は議論していなかった部分でもあり、それが課題でもあった。先行して進めつつ整合が図れると一番よい。

【委員】都市マスの委員会が、基本構想の作業部会に情報発信できないのか。

【委員】法律上は、上位計画に則する必要がある。まちづくりの現場視点を参考意見として共有させることはよいのでは。

【事務局】最終的に基本構想に沿っていれば良いということなので、的外れでなければ基本理念・目標は都市マスの世界で議論して、後で修正することは問題ない。

【委員】普通、上位計画は先にあるものだから、今回はイレギュラーかと思う。現場レベルから考えて積み上げることは悪いことではないので、こちらで先行して検討しても問題ないのではないかと。

【委員】目標からのブレイクダウンと時代の先取り感がないのは課題が残るので、仮置きで基本理念と目標をつくってみるのはどうか。

【委員長】これから考えると、委員会を経ないで公表してしまうことになる。

- 【事務局】まちづくりの目標からブレイクダウンして視点をつくるとなると、現行計画の目標1・2・3からやっても意味がない。
- 資料1のスケジュールをご覧いただきたい。現状、骨子たたきを作成し、それを修正して公表、11月に次回委員会と記載しているが、11月の委員会を繰り上げて、今回の議論を進めた方が骨子がより良いものになるということであれば、前倒しでやることも案として考えられる。基本理念とまちづくりの目標をこの場で議論していただいて、そこから視点が固まれば、材料はあるので4章・5章以降の作業は進めやすくなる。全体スケジュールに影響しない形で、骨子作成のためにもう一回委員会を開催する方向ではどうか。
- 【委員長】素案になってから何回も委員会で議論する必要はないと思う。6月か7月あたりで骨子のために開催してはどうか。基本理念・目標から視点まで導くとなると、このまま事務局に作業してもらって仮案としても、委員の考えと外れてしまう可能性がある。
- 【委員】骨子の公表時期は動かさないのか。目標案つくるのは大変そうだが、新しさを付け加えるアイデア出しが必要なのではないか。
- 【委員】ワークショップを改めて設定するか、この場でブレインストーミングをやるか。今アイデアをもらわないと事務局も作業できないのではないか。
- 【事務局】目標のたたきを用意することは、あまり意味がないと感じる。この場でキーワードをいただければ、視点に落とせるので、その後の4章・5章は機械的に作業できる。目標から視点までのヒントを出していただけるとありがたい。
- 【委員】目標や基本理念に新しい概念が出てくれば、視点は今のままでもいい場合もある。
- 【事務局】視点のポツと出た感が、新しくも台東区らしくもないということ。基本理念や目標が台東区らしくあれば、視点は今のままでも整理できる可能性がある。
- 【委員】今あるものを台東区らしさとするとは既定路線となってしまう。これからの台東区がどうあるべきかを示さないといけない。
- 【委員】p.20 現行計画の「歴史・伝統からうみだされる～、新しい文化をつくるまち」の「新しい文化」が何かということ。
- 【委員】やはり文化・産業・観光がポイントかと思う。ものづくりの伝統からクリエイティブさが生まれる、歴史的な風土があって、新しさにつながるようなものづくりが台東区の専売特許ではないか。
- 【委員】死ぬまで働けるまち。
- 【委員】住んで楽しいまちづくりを続けたい。イベントがあって楽しそうと若い世代が入ってくるような土壌がある。楽しいのなかにはイベントだけでなく、色々な要素が含まれる。
- 【委員】良好なコミュニティ形成が心の健康にもつながる。
- 【委員】災害に強いまちづくりが必要である。
- 【委員】歴史と伝統といってもただ古いだけでなく、新しいものとミックスさせていくことを意図したい。
- 【委員】今からできる伝統や歴史がある。
- 【委員】老舗が今の形態でそのまま残るだけでなく、新陳代謝していくことも考えられる。古いものと新しいものの融和は、京都を例にしても必須と言え、用途を変えて新しいものにしていくことは、ものづくりで必ずやっていることである。
- 【委員】未来から振り返った時の伝統を今つくらないといけない。
- 【委員】新しいものを拒まないのは台東区らしい。人も拒まない。
- 【委員】p.20の現行計画の基本理念と目標に+αの新しい視点を加えるのが一番よいと思う。

- 【委員】健康都市宣言をしたことに関して、特別な施策あるのか。
- 【事務局】あるはずだが、調べないと具体的に答えられない。
- 【委員】「都市計画マスタープラン」なので、都市として、環境としてどうあるべきか議論しないと、都市マスの意味がない。
- 【委員】健康になる暮らしを実現させるまちはどんなものか、楽しく歩ける空間があると、みんなが健康になるというのがよい。健康な人や走りたい人だけが集まって走るような皇居の周辺のような空間はあまり意味がない。
- 【委員】現行計画の目標では、経済的な部分が弱い。呼び寄せる、盛り上げる、の視点が欠けている。今後の台東区は、暮らしと伝統だけでやっていけるのか。
- 【委員】徒蔵や谷中では、店の主人がそこに居てモノをつくって売るといふ、古くて新しい感覚として、青山でなく谷中でわざわざやりたいという人が増えている。芸大もあるので連携できるとよい。
- 【委員】選ばれるまちになる。山谷や鶯谷には弱い人を受け入れる素地があると感じる。台東区として見ないようにするのはではなく、今の価値からポジティブに変換して捉えたい。多様性がよい表現かわからないが、懐の深さを推せないか。
- 【委員】区民としては、まだポジティブに受け止めるのは難しい。
- 【委員】避けて通れないとは思っている。清濁併せ呑む必要がある。
- 【委員】再起を図る人が集えるまちづくりという意味ではあると思う。今では大企業になった会社が、アメ横に1号店を構えていた例もたくさんある。若い人が企業するのに、丁度良い小さな店がたくさんある。
- 【委員】インキュベーターとして役割があるまち。
- 【委員】台東区全体がそういう区という方向性を打ち出せるとよい。
- 【委員】観光のインバウンドがこれからもっと増えるだろう。今でも、上野や浅草には観光客がたくさん来ている。
- 【委員】どんどん増えるからと、努力しなくなると良くない。
住んで楽しいはキーワードとして良いと思う。「楽しい」を分解すると具体的になる。
- 【委員】イベントがたくさんあって、文化・伝統に触れられ、健康でいられる、と楽しいの下にいくつか具体例を入れていくとよい。
- 【委員】高齢化率が高いことも、ポジティブに捉えてまちづくりにつなげられるとよい。
- 【委員】元気で、労働年齢が高いまち。

(3) 今後の作業方針について

【事務局】(資料4-1、4-2、4-3の説明)

- 【委員】資料4-1の将来都市構造の改定について、拠点と軸のヒエラルキーと言葉が混乱している。拠点は、広域総合拠点、広域拠点、地域拠点のなかに生活・文化拠点が特出しされているが、順番はこれで良いのかよくわからない。軸はネットワークと、鉄道と道路と舟が混在している。軸という言葉がふさわしいのか、ネットワークが相応しいのかわからないが、基盤としての軸のなかに文化・観光連携軸が入ってきて、拠点と「文化」だけが被っている。目標像が出てくると、強化すべき軸としてあぶり出されてわかりやすい形になるのかもしれない。今後、目標と合せて整理してほしい。
- 【委員】資料4-3のp.3「台東・小島・鳥越地区」となっている図形は、若いクリエイターが

活動している蔵前まで広げないと実態と違うのではないか。

【委員】重点地区が、今盛り上がっているところではなく、もっと盛り上げないといけない、がんばろうというところだとすると、意図が変わってくる。

【委員】重点地区に指定されると何のメリットがあるのか。台東区の半分以上が重点地区になっている。

【事務局】p.1 の選定フローのなかに、資源があることや迅速な課題解決が要求されることと示している通り、テコ入れするべきところと考えている。ただ、地区ごとに同等というわけではなく、谷中地区のようにまちづくり方針が出ているところもあれば、具体的なまちづくりは動いていないが課題があると抽出したところもある。まちづくりとして何をやるか、段階もまちへの入り方も異なり、それぞれに合ったアプローチがあるかと思う。一方で重点地区を凶に落とす時に、どれくらいの範囲とするかは、今後の作業となる。

【委員】重点地区に指定されると予算が割り振られる等ではないのか。

【事務局】都市マスではそこまでは難しい。

【委員長】重点地区でまちづくりの要望があがれば、区も動きやすい。

【委員】根岸・入谷地区では、拠点では鶯谷駅周辺となっているが、旧坂本小学校跡地と鶯谷駅と入谷駅に広げてもらった方が、実態に即している。

【事務局】資料4-1の新しい地域拠点と資料4-3の重点地区がきちんと整理されていないため誤解を招いてしまっている。重点地区は抽出に基づく選定で、将来都市構造との整合はこれから図る。

【委員】重点地区はまだ決まっていないということ理解した。

【委員】大規模用地をまちづくりの契機と踏まえて設定するということか。

【事務局】重点地区に用地が入っているが今は中心ではない表現になっている。都市構造の拠点と重点地区、設定理由のもとにきちんと整理して描いたものを次回提示したい。

【委員】資料4-1に関して、台東区のスケールで都市構造を考えるのは難しい。個性のある地区があって台東区のまちが構成されている。それぞれの地区が工夫してまちづくりをやるが、さらにもっとお互いを連携すると相乗効果でもっと良いまちになるというイメージで、軸があるとよい。ストーリーづけて拠点と軸が出てくるとわかりやすい。

5. その他

【事務局】次回の委員会で本日ご議論いただいた意見を整理して、もう一度議論するか検討させていただきたい。今後の作業として、資料4-1、4-2、4-3に関しては修正した上で作業を進め、次回進捗状況をご説明する。次回の委員会については、委員の方のご都合を調整して決めさせていただきたい。

6. 閉会

以上